

白銅 新合金開発で共同研究 金属3Dプリンターの対応拡大へ

白銅（社長・角田浩司氏）は金属3Dプリンターによる造形事業

で、日本市場にマッチした合金開発に挑む。このほど東京理科大学、キヤノンマーケティングジャパン（キヤノンMJ）と金属3Dプリンターの対応鋼種拡大に向けた共同研究を開始することを決めた。3月からプロジェクトがスタートした。白銅は特殊鋼やステンレス、アルミなどの素材について、国内で一般的な合金をラインアップすることで顧客ニーズを拡げていく方針。

金属3Dプリント造形に用いる材料（粉末）は通常、プリンターメーカーから純正品を購入するのが一般的だが、大手プリンターメーカーは欧米に本拠を

置いているため、欧米でのニーズに沿った合金に対応している。このため、日本国内で一般的に使用される合金ラインアップが少なく、国内顧客が要求する材質にマッチしていない問題がある。白銅に対しても新合金開発を望む声が多く上がっていたため、産学合同で合金開発に乗り出すことを判断。3団体は3月1日付けで、国内で一般的な合金を3Dプリンターで活用するためのプロジェクトを発足した。

3Dプリンターに新合金を対応させるためには、プリンターの制御に加えて最適な金属粉末の開発が必要となる。プリンターのレ

ザ出力や積層厚、造形スピード、照射角度などのさまざまな条件を掛け合わせた独自レシピ「パラメーター」の開発に加え、金属粉末についても形状や大きさなどの諸条件をクリアした特注品を素材メーカーと連携して開発する。

金属3Dプリンターによる造形受託サービスはさまざまな業界からの新規参入が相次ぎ、市場も徐々に拡大している。15年から事業をスタートした白銅は、金属商社としての情報ネットワークを活用し、より将来性が期待できる合金を開発しラインアップすることで市場を拡大していく考え。

